

広がるオープンバッジの活用と マイクロクレデンシャル

川口 泰司^{*, **, ***}

Open Badges on the Rise: The Growing Impact of Micro-Credentials

Yasushi KAWAGUCHI^{*, **, ***}

Open Badges have gained significant traction within Japanese academic and corporate sectors, resulting in a proliferation of innovative initiatives, especially in the domains of educational quality assurance and workforce development. The advent of Open Badges 3.0 has markedly enhanced the system's flexibility, paving the way for its expanded utilization across a myriad of disciplines as a robust mechanism for validating learning achievements and proficiencies. This paper delves into the underpinnings of Open Badges, elucidates the advantages conferred by the latest standard, and presents concrete case studies of micro-credential implementation in Japan.

キーワード：オープンバッジ，デジタル証明，Verifiable Credential，マイクロクレデンシャル

1. はじめに

日本でもオープンバッジの活用が大学や企業を中心に広がりつつあり、教育の質保証や人材育成などにおいて、さまざまな取り組みや成功事例が生まれている⁽¹⁾⁽²⁾。また、新たな技術標準である Open Badges 3.0 の公開により、技術的な柔軟性が向上し、学習成果やスキルの証明手段として、多様な分野での新たな適用が期待されている。本稿では、オープンバッジの仕組みと新たな技術標準がもたらすメリットを論じ、国内でのマイクロクレデンシャルへの具体的な適用事例と、その効果についても解説する。

2. オープンバッジの技術標準とその進化

オープンバッジは、1EdTech Consortium が提唱する世界共通の技術標準規格に沿って発行されるデジタル証明・認証である。最新の技術標準である Open

Badges 3.0 は、自己主権型アイデンティティ (SSI: Self-Sovereign Identity) に対応し、個人が自身のデジタル証明書を管理できるなど、Web3.0 の思想である分散型アイデンティティの概念を取り入れて、より一層の進化を遂げている。

従来の Open Badges 2.0 では、学習行動により獲得したスキルやコンピテンシー情報を SNS など共有し、学習成果を証明する活用が中心であったが、Open Badges 3.0 では、マイクロクレデンシャルをはじめ、政府や公的機関が発行する資格証明など、さまざまな種類のデジタル証明書を発行するための枠組みとして利用されることが期待される。

注目すべきは、ブロックチェーン技術との連携であり、ブロックチェーンの改ざん耐性や透明性の高い特性を活かすことで、オープンバッジの信頼性をさらに高めることができる。ブロックチェーン上に発行されたオープンバッジは、一度発行されると改ざんが困難であり、その発行履歴を永続的に記録することができ

* 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク (Open Badge Network Foundation)

** 株式会社ネットラーニングホールディングス (NetLearning Holdings Ltd.)

*** 聖徳大学 (Seitoku University)